

氏名	三宅規之		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博甲第 861 号		
学位授与の日付	平成2年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学(-)専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)		
学位論文題目	マウスにおける adoptive immunotherapy による腫瘍退縮メカニズムの解析		
論文審査委員	教授 赤木忠厚	教授 寺本 滋	教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

マウスにおける adoptive immunotherapy による腫瘍退縮メカニズムを解析するために、浸潤単核球やサイトカインについて検索した。その結果、腫瘍局所における Thy-1, Lyt-1, Lyt-2, L3T4, asialoGM1, OKIa1, の各陽性細胞はすべて adoptive immunotherapy を行った退縮腫瘍群で増加していた。また、退縮腫瘍局所における Thy-1, Lyt-1, Lyt-2, L3T4 の各陽性細胞は adoptive immunotherapy 直後では腫瘍中心部に多数認められたが、時間の経過とともに辺縁部に移動した。この変化において、L3T4⁺ 細胞は Lyt-2⁺ 細胞に先行しており、L3T4⁺ 細胞を介在する免疫反応が示唆された。また、退縮腫瘍に対する histo in situ hybridization の結果、TNF- α , - β の mRNA は adoptive immunotherapy に関係なく認められたが、IFN- β , - γ の mRNA は退縮腫瘍のみに認められた。退縮腫瘍群の TNF- α 活性は、コントロール腫瘍群と同様の変化を示した。一方、退縮腫瘍群の IFN 活性は腫瘍退縮後に有意に増加した。これらの結果より、IFN の腫瘍退縮に対する関与が示唆された。以上、adoptive immunotherapy による腫瘍退縮メカニズムの解析を試みた。

論文審査の結果の要旨

本研究は adoptive immunotherapy による腫瘍退縮メカニズムを、退縮腫瘍局所の血管系、浸潤単核球の性状、血中及び退縮腫瘍中のサイトカインを調べることにより解析したものであるが、退縮メカニズムについて重要な新知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。